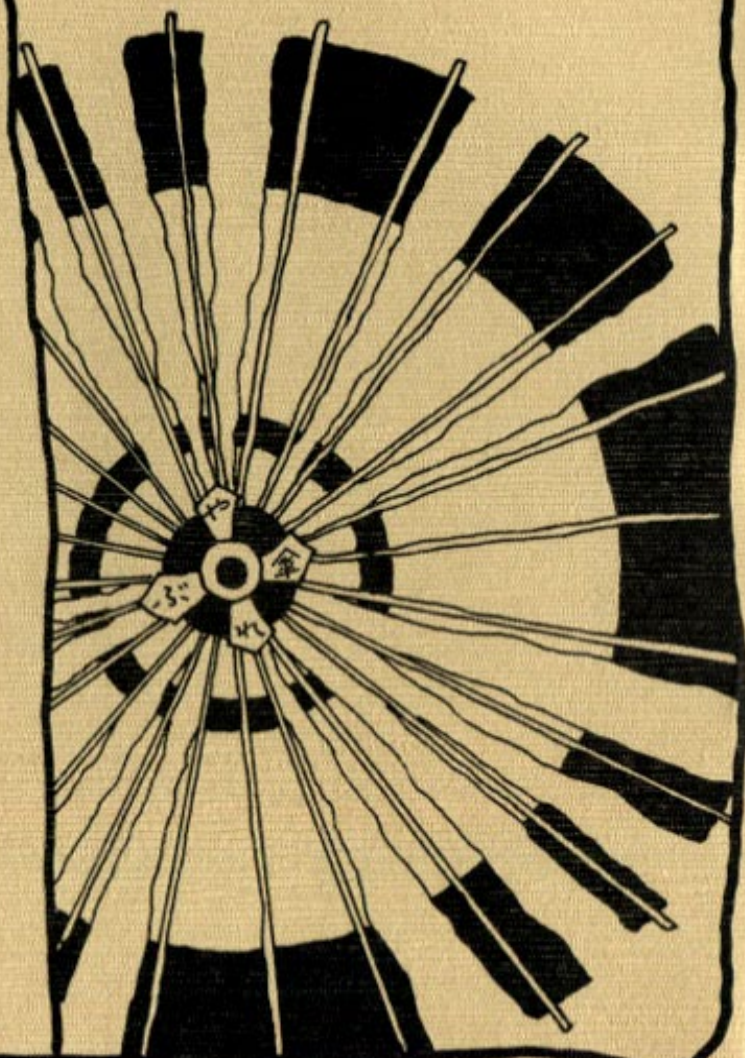


やぶれ傘



八十七号

二〇一五年十二月

綿虫や住まひのやうな町工場	根橋宏次
団栗の落ちて丸太に鳴りにけり	大島英昭
お達者地蔵その上に柿熟れて	瀬島洒望
朴落葉被りてゐたり力石	廣瀬雅男
ちちろ鳴く方へ磨ぎ汁捨てにけり	きくちきみえ
山茶花や招待状に丸つけて	丑久保 勲
真四角に誤字塗りつぶす夜長かな	小山陽子
夜の風に冬の匂ひの舗道ゆく	安藤久美子
冬木の芽見をればパリのテロの報	藤井美晴
秋の昼乗換へ駅はピルの底	渡邊孝彦
見得切りしまま枯れ初むる菊人形	菊池洋子
後の月盆地の底に湯をつかひ	青谷小枝
縁側に四五個の柘榴転がされ	白石正躬
引出しに飴の出て来る長火鉢	國保八江
秋惜む大吊橋を渡りきて	久世孝雄

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選

どんぐりを転がしてみる掌	秋山信行
頂でココアいたたく秋の山	有賀昌子
銀杏の匂ひを散らす夜風かな	松村光典
ぐうの手に木の実どつちと問ふ子かな	貫井照子
秋夕焼け人工衛星ひとすぢに	野口希代志
秋空をはち切れさうな飛行船	橋本美代
熊除けの鈴りんりんと秋の山	山本久枝
墓参りして野の道を帰りけり	浅嶋 肇
網棚にリュックをひとつ紅葉狩り	石塚清文
魯田にしほみかけたるゴムボール	泉 一九
蕎麦殻を枕に足して冬近し	上林富子
残る葉を落としてからの梅擬	黒澤次郎
境内は吹き溜まりなり神の留守	小池一司
名月をいま一度観て眠りけり	小巻若菜
冬に入る午後のラジオはシャンソンを	齋藤朋子

冬
桜

藤井美晴

飯桐の実の赤ければ仰ぎ見る
実南天毛並荒れたる猫がゐて
菊の香や室内楽の音合はせ
銀杏並木右側ばかりもみぢして
風吹けばふひよると鳴けり冬の虫
すばる見ゆ冬耕あとの土にほひ
冬桜見えて夜中の幼稚園
ひとところ明るし冬の夜の雲
ぶら下がる洗濯物に冬の月
冬木の芽見をればパリのテロの報

神の留守

渡邊孝彦

板塀のむかうは鉄路はつもみぢ
秋の昼乗換へ駅はビルの底
踏切をわたれば鳥居稲熟るる
ブリキ小屋の車庫兼倉庫柿の秋
烏瓜見上げて行けば行き止まり
後の月幾度もみつけ森を行く
晴れて昼黒き鳥居と柿紅葉
行く秋や田んぼの空に鴉啼き
大楠の根回りの注連神の留守
神木は長寿けやきや七五三

菊人形

菊池洋子

蔵町の飴屋駄菓子屋冬ぬくし
飛石のほどよき歩幅花八つ手
弁天の肩なだらかや破蓮
弾みきしどんぐり擱む札所寺
夜寒しふつくら豆の煮上がりて
見得切りしまま枯れ初むる菊人形
夜寒し猫のじやれつく紙袋
秋うらら寺の布袋の腹なでて
枝先を地にふれみたる実むらさき
今日の月天窓すこしあけてみる

後の月

青谷小枝

いくたびも覚め幾度も月を見に
プロパンのボンベが二本秋の昼
赤とんぼ芝生の庭の先に海
川越しに明日の約束赤とんぼ
地境は低き植ゑ込み鉦叩
紅芙蓉札所寺への曲り角
のつぺい汁粗き刺子の藍木綿
棗の実雑器ばかりの陶器市
後の月盆地の底に湯をつかひ
冬木立ビニール傘の雨の音

栝
榴

白石正躬

秋耕や昼餉うながす声届き
齒刷子で洗ふ薄紅生姜かな
縁側に四五個の栝榴転がされ
つぎつぎに木の実の落つるトタン屋根
柿落葉落ちたるままに日当たりて
船頭の水棹さす音雁の空
身の音のほかに音なき長き夜
草虱つけて川辺をかへり見る
塔みゆる霧の川辺となりにけり
菊の香のただよふ通夜の長かりき

長火鉢

國保八江

紙のごとき松茸二枚土瓶蒸し
引出しに飴の出で来る長火鉢
古着屋の金紗縮緬秋惜しむ
神の留守煙管で煙草吸ふ女
松手入れ植木屋さんは眼鏡かけ
手のひらに柚子の香りをつけしまま
柿熟るる縁側の猫居眠りて
根深汁夫と二人の暮しかな
実南天祖母の小言を思ひ出す
山茶花の垣を伝ひて山門に

冬 隣

久世孝雄

晩秋や車まばらな駐車場
秋の蝶日射しの中へ消えにけり
イベントのテント膨らむ秋高し
会津より身不知柿の届きけり
秋惜む大吊橋を渡りきて
静まれる池面にゆらぐ後の月
土壁の納屋の農機具冬隣
時雨るるや昔なじみの店は閉ぢ
冬に入る何故か飲みたき昼の酒
枯れすすき一斉に向き変へにけり

どんぐり

秋山信行

柵越しに馬を呼ぶ兎や秋の空
秋天に雲のひとつとグライダー
底石に魚影ひらめく秋の川
夕風や矢板にとまる糸とんぼ
船絵馬に止まらんとする塩とんぼ
鉢植ゑに今年は七つ檸檬の実
春耕やシャベルで叩く土の塊
早や誰か詣でし跡や秋彼岸
芋莖干す八十路の婆に習ひつつ
どんぐりを転がしてみる掌

秋の山

有賀昌子

天高し組体操の組み上がる
墓場には鶏頭一本生えてゐる
爽やかや鉦泉煎餅さくさくと
秋涼し衣の船上レストラン
車窓より手の届きさう蔦紅葉
ぼこぼこの走り根踏んで初もみぢ
塀越しに芙蓉の花のひとつ見え
小鳥来る神社の庭に三輪車
二輪車の鞍で猫寝る冬隣
頂でココアいたたく秋の山

ポップコーン

松村光典

ポップコーンに鳩の群れ寄る秋日和
鼻水をすすりすすりのケバブかな
はらはらと木の葉散る散るすずめ散る
銀杏の匂ひを散らす夜風かな
ちりちりと秋の黄蝶のもつれあふ
定刻にバスの現る秋日和
秋晴れてイヌを満載乳母車
鼻歌でさくら紅葉の並木道
秋雨や傘と竹刀の二刀流
しぐるる日酸素マスクの友見舞ふ

吹かれては翅を起こして秋の蝶
飛石に影を大きく秋の蝶
リサイクルをへて上野の虫時雨
秋風に火葉のにほひ徒競走
舞ふ巫女の鈴に集まる秋日差し
ぐうの手に木の実どつちと問ふ子かな
縁側で足をぶらぶら月見の子

貫井照子

団栗の散らばる木の根あたりかな
山峡の紅葉がくれに川流れ
やつちや場の野菜積み上げ冬に入る
小春日や読経に和する古時計
はらかならの集ひて墓地へ小六月
墓場への道を行くと雪螢
冬落葉踏めば靴底沈みけり

野口朝世

◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	8日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	8日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・建長寺	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

2月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所 JR 鎌倉駅東口改札口(若宮大路の方)。吟行地は建長寺。句会場は玉縄学習センター(大船駅より徒歩12分)。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ